

リフレッシュ・サーキュレーション (個を高める)ウォーカブル

大宮停車場大成線の周辺は、オフィス街と住宅街が近接する地域のなかに位置します。異なる役割をもつ街として、未来に眼を向けると「健康的な働き方」や「2040年問題」など、共に健康を育む環境づくりが求められるという共通の課題をもっています。そこで、大宮停車場大成線と緑豊公園を中心とする地域に、付随する小空間を備えた、まちを循環するサーキュレーションとしてのミチを設けます。活発な運動や健康的な食文化、生活環境を構築・循環させることで、地域の健康を醸成/発信するウォーカブルシティを目指します。

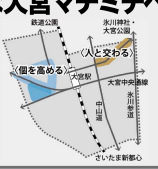
大宮停車場大成線の周辺環境分析

【現在】
・常住人口/団塊ジュニアの割合が高い住宅街と、オフィス街が近接する地域。
・駅近くでは朝夕の高い発生集中量。
・駅から離れた住宅密着の増加。
【将来の課題】
・オフィス街における新しい働き方。
・人口減少と特定の世代への傾り。
・住宅街における「2040年問題」。



心も体も満たされる、ウェルビーイングな大宮マチミチへ

地域の特徴を生かしたライフスタイルを育み、人びとの心と体を満たすウェルビーイングな21世紀の大宮街を提案します。異なる特徴・課題をひとつもつ2つの街を対象に、〈個を高める〉ウォーカブル(西口・大宮停車場大成線エリア)と〈人と交わる〉ウォーカブル(東口一の宮通りエリア)として、新しいライフスタイルをコンセプトにしたマチミチづくりを行います。2つの街の経験を通して、人びとの「心」と「体」を満たし、ウェルビーイングな営みを地域全体へ浸透させます。

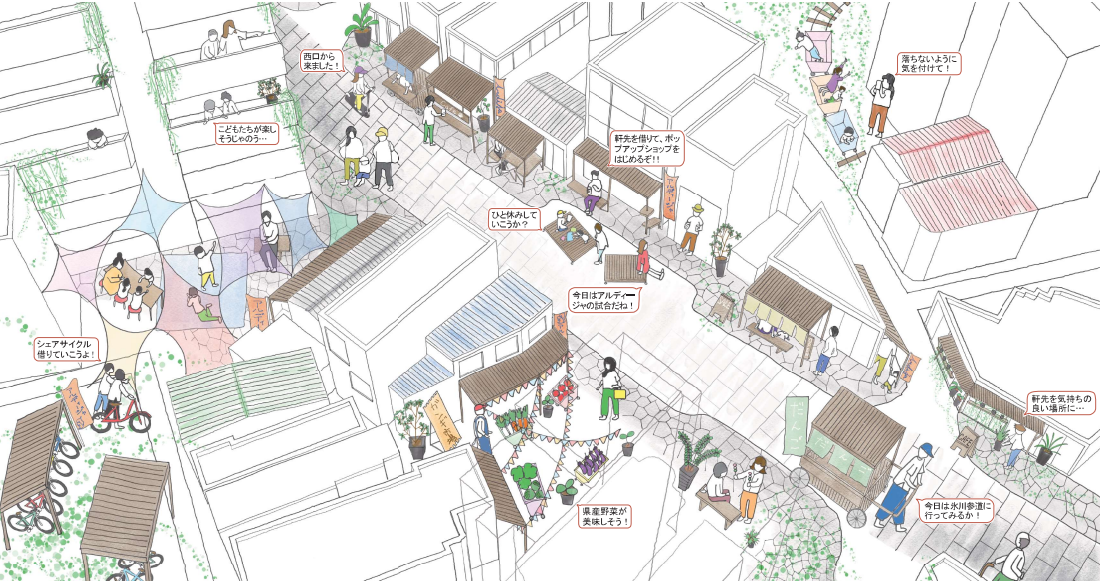
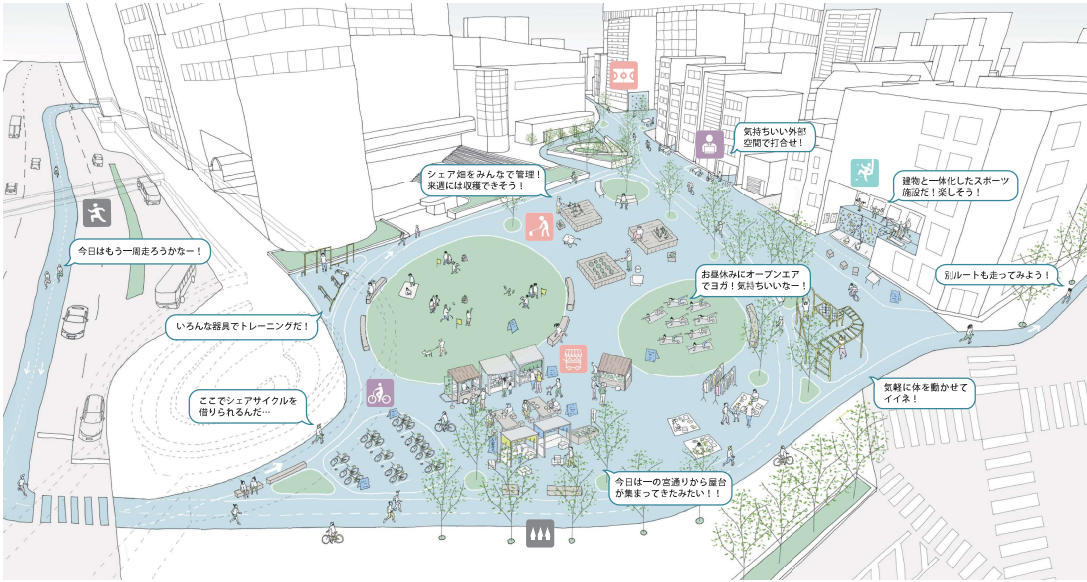
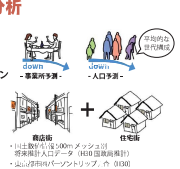


ヨハク・アクティベーション (人と交わる)ウォーカブル

一の宮通りは、商店街と住宅地の2つのキャラクターをもつ親しみのある都市空間です。しかし「寂やかな人口減少」や「2040年問題」による空き家増加(空室化)などの課題を抱えており、都市の余白空間の増加が今後想定される地域です。そこを越えるべき未来に向けて、これらの余白空間を「でこぼこ羅木」や「ヨハク広場」といった手法により「アクティブ(活性化)させることで、ゆとりと遊びを活かした活動的な新しい高層大宮街を提案します。これまで約40年歴史を継承しつつ、積極的な地域住民の働きかけにより成長し変化するウォーカブルシティを目指します。

一の宮通りの周辺環境分析

【現在】
・駅から少し離れた商店街で住宅街の雰囲気も合わせつつ。
・沿道向の閉鎖性を残しておりヒューマン・スクールで親しみやすい街並み。
【将来の課題】
・緩やかな人口減少が想定されている。
・空き家増加などの空室化の進行。
・空き家などの余白空間の増加。



推進戦略 1. まちとまちの回遊性 / まち中での回遊性

地域の健康と回遊性を醸成する活動的なミチ

【健康を増進する活動的なサーキュレーションにより、利用者の健康を増進しながら周辺地域の回遊性を高めます。】

【地域全体への発信拠点】
シェアサイクルなどのハブとしての役割をサーキュレーションが兼ねること、大宮地域全体への回遊性を形成します。

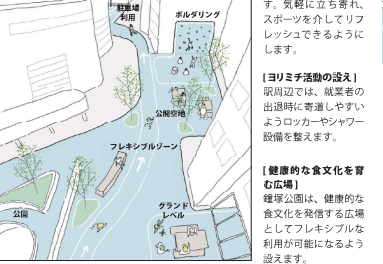


推進戦略 2. まちの滞在性

地域環境/資源との多様な共同関係による居場所づくり

【多様な居場所/運動空間】
周辺環境に応じてサーキュレーションが変化することで、多様な滞在空間/運動空間を形成します。オフィスワークのミーティングスペースとしても利用できます。

【事業者との連携】
1階店舗とサーキュレーションの連携を積極的に行い、活動的なランドレベルを形成します。気軽に立ち寄り、スポーツを介してリフレッシュできるようにします。



【ヨリミ活動の設計】
駅周辺では、就業者の出勤時に寄進しやすいうようロッカーやシャワー設備を整えます。

【健康的な食文化を育む広場】
健康食発信は、健康的な食文化を発信する広場としてフレキシブルな利用が可能になるよう設けます。

推進戦略 3. みちの質やまちの魅力が持続する仕組み

アクティブで個性的な「都市のヨハク」を回遊する魅力

【訪れるたびに新たな発見を生む街並み】
不均質で変化に富む個性豊かな街並みを形成し、地域散策の魅力を高めます。

【地域全体への発信拠点】
シェアサイクルなどのハブとしての役割をサーキュレーションが兼ねること、大宮地域全体への回遊性を形成します。



【住みながら商いをする商店街】
多様な店舗を生み出す「でこぼこ羅木」や「ヨハク広場」は、軒先ビジネス系へ誘出可能なスペースとし、地域全体に新規事業者が集まりたいためのインキュベーションスペースを組み込みます。

推進戦略 4. その他

段階的/継続的な、成長地域へ広がるサーキュレーション

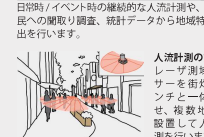
【段階的な継工計画】
大宮停車場大成線/緑豊公園周辺を第1期のサーキュレーションとし、整備結果を踏まえリサーチ/調整を行ったうえで次期工費を段階的に計画/実行します。

【サーキュレーション育成組織】
地域事業者との連携強化のため、サーキュレーション設備にも、住民参加型の地域育成組織を設立します。社会実験などを経て継続的な成長を目指します。



実現化のためのプロセス

「大宮のウォーカブルなまち」(大宮らしさ) / 「コアなニュー・マ」(コアな個性) といった様々な観点による検討を効率的に進めるために、具体的な場を画し、評価のフィードバックを経て改良を重ねる。プロトタイプによるまちづくりを行います。特にリサーチのプロセスでは、日常的な歩行者の通行感をレーザ測距センサなどによって継続的に計測するなど、新技術を活用したスマートなまちづくりを行います。



【リサーチ】
日帯別/イベント時の集客の人流計測や、近隣住民へのアンケート調査、統計データから地域特性の抽出を行います。

【デザイン】
プロトタイプ的设计を行うと共に、それらの試験データから全体計画の見直しを行います。

【プロトタイプ】
「リサーチ/デザイン」を反映した制作物(紙/版作)を設置し、本業展開に向けた社会実験を行います。
大宮大宮停車場周辺

【リアライゼーション】
これまでのフェーズを反映した最終案として本実装を行います。

【マネージメント】
地域住民の取組への後発的な参加や、本実装後の計画進捗など将来に連動的な街並みづくりをサポート体制づくりを行います。

【評価】
地域住民の取組への後発的な参加や、本実装後の計画進捗など将来に連動的な街並みづくりをサポート体制づくりを行います。

【リサーチ】
日帯別/イベント時の集客の人流計測や、近隣住民へのアンケート調査、統計データから地域特性の抽出を行います。

【デザイン】
プロトタイプ的设计を行うと共に、それらの試験データから全体計画の見直しを行います。

実現に向けた運営形態・組織構成

これまで地域に根差してきた協賛会、UDCOといった既存のまちづくり組織などのコンベンションを主導し、デザインを主に担当します。その際、大学研究室などの新たな外部協力者を積極的に巻き込み、協賛することで、新しいアイディアとプロトタイプの活動を継続的に進めます。地域住民や事業者はプロトタイプの評価を主に担当しますが、デザインやプロトタイプにも参加してもらい機会を作ること、関係者全員が当事者となってまちについて共に考え、準備を実現させます。行政はまちづくりのサービスプロバイダーではなくプラットフォームホルダーとして、活動の調整と整備を行います。

